



# みくびびびだより

発行 御首神社社務所

## 御挨拶

拝啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、天皇陛下に於かれましては、十月二十二日に即位礼正殿の儀を厳かに斎行なされまして、令和の天皇陛下がご即位されました事を国の内外へとご宣明あそばされました。ご即位のお言葉では、上皇陛下が平成の御代、常に国民のためを想われ、国民と苦楽を共にされてきた御心に思いを致され、ご自身もまた国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら象徴としてのおつとめを果たされる事をお誓いになりました。そして最後には「国民の叡智とたゆみない努力によって、我が国が一層の発展を遂げ、国際社会の友好と平和、人類の福祉と繁栄に寄与することを切に希望いたします。」と述べられました。

また、台風被害などを考慮の上で延期とされておりました祝賀御列の儀が、十一月十日に晴天の下、盛大に執り行われました。沿道には凡そ十二万人の奉祝者が集まり、天皇皇后両陛下をお祝いになりました。

そして十四日・十五日には無事に大嘗祭が斎行され、天皇陛下の皇位継承における重儀が目出度く納められました事は、国民としてこの上ない喜びであります。当社におきましても十月二十二日に即位礼当日祭を、十一月十四日に大嘗祭当日祭を滞りなくご奉仕申し上げ、ご即位また大嘗祭をお祝い申し上げますと共に、皇室の安寧を祈願いたしました。私たちは、陛下のお気持ちを中心に留め、令和の御代をより良い時代へとするべく、真心を以って過ごして行きたいものです。

最後になりましたが、当社では迎春にあたり準備を進めております。皆様方には、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受されまして、清々しい新年をお迎え頂きます事をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

敬具

宮司 三浦 篤

## 祭事報告

## ▼末廣稻荷神社（境内社）例祭

八月四日

末廣稻荷神社は、京都の伏見稲荷大社より御分霊を賜り、宇迦之御魂神を祀っております。八月の第一日曜日（第二になる年もあります）を例祭日と定めており、本年も予定通りに例祭を斎行致しました。

当日、氏子地区の子ども等が描いた絵を貼り付けた奉納行灯が稲荷神社の参道に飾られ、自分や友達が行灯を見ては、あの絵が上手だ、この絵が気に入った、などと言う元気な声が、朝から境内に響いておりました。



## ▼夏越大祓

八月四日



午後三時半、暑さがさらに増して行くような時間帯ですが、祭場には丁度良く影が差し込み、時折気持ちの良い風も吹き・・・と言いましても、やはり夏本番です。ご参列の皆様は汗を拭きながら、神職等は汗を流しながら、神事が進められました。特に大祓詞を奏上する神職は、滝のような汗を流しておりました。

神事終了後、皆様が罪・穢れを託された人形を忌火にて焚き上げました。また、夕方まで茅の輪くぐりが行われ、多くの参拝者で終日賑わいを見せました。

## ▼神明神社（境内社）例祭

十月十七日

神明神社は本殿の北西に鎮まり、天照大御神をお祀りしております。例祭当日の早朝より御社殿の準備を行い、定刻通り斎行致しました。

## ▼即位礼当日祭

十月二十二日

天皇陛下の即位礼正殿の儀に併せ、当日祭を滞りなく斎行し、陛下のご即位をお祝い申し上げると共に、皇室の安泰を御祈願致しました。

## ▼崇敬会大祭

十一月三日

当日は県内外より多くの崇敬会会員の方にご参列頂きました。



ご参列の会員の皆様のお名前をご神前にて読み上げ、健康・家業繁栄などを祈願し、恙無くお仕え申し上げます。

また、ご参列の会員の方には神事終了後に大祭祈祷神符を授与致しました。

崇敬会にご入会の皆様には、この大祭への参列や、年に一度伊勢への研修旅行（日帰り）などもご案内致します。詳しくは六頁の崇敬会入会のご案内をご覧ください。

これを機に、より多くの皆様にご入会頂き、また会員の皆様は周りの方々をお誘い頂けたら幸いです。ごさいます。

## ▼大嘗祭当日祭

十一月十四日

天皇陛下がご即位になられ、最初の新嘗祭を大嘗祭と言い、皇位継承における重儀とされております。（みくびだより令和元年六月号をご参照下さい）大嘗祭は、十一月十四日から十五日に掛けて執り行われました。

当社でも大嘗祭に併せて当日祭を斎行致し、大嘗祭をお祝い申し上げます。



▼新嘗祭

十一月二十三日

新嘗祭は、古来より祈年祭・例祭と並ぶ重要な神事(三大祭)として行われてきました。



今年の六月にお田植祭・農休祭を齋行し、職員の手により大切に育ててきた初穂をご神前にお供え致しました。初物を神さまに召し上がって頂き、五穀豊穰への感謝と共に、皇室の安寧及び国家の安泰を祈願申し上げます。  
ご神前に供えられた初穂は、一粒一粒取り分け、ご祈祷のお下がりとしてお頒ちされます。

▼七五三参り

十一月中

七五三参りは、徳川綱吉が長男の健康を祈り氏神様へ参った事が由来とされており、その日が十一月十五日であった事は広く知られております。

一時期、男女共に三歳・五歳・七歳でのお参りが多かったのですが、最近では本来の意味を再認識して下さる方も増えたのか、それぞれの該当年齢で参拝される方が増えてきました。

十月になると、チラホラと七五三のご祈祷が増え始め、十一月十五日近くの土・日曜日には多くのご家族がご祈祷に見えました。子供たちは、洋装・和装と様々でしたが、普段着慣れない衣装に緊張したような面持ちでお参りしていました。

その表情は凜として見え、各節目の歳に少し大人に近づいた事を感じさせてくれます。

諸祭典(抜粋)

▼月次祭

毎月一日 二十日

ご奉納頂きました

▽令和元年八月、海津市南濃町の中村とみ子様よりご寄付を賜り、末廣稻荷神社の例祭に合わせ、同神社金幣を修復させて頂きました。これまでは漆が剥げ落ち、幣の金色もくすんでおりましたが、お陰を持ちまして新品と見違えるほどに綺麗になりました。  
この場を以ちまして、改めて御礼申し上げます。



〈修復前〉



〈修復後〉

▽崇敬会より、以下ご奉納頂きました。

一、神前特大幟一对



一、末廣稻荷神社幟二対



一、立烏帽子四頭



以上、ご奉納ありがとございます。

# 神社について

一言に神社と申しましても、その信仰の形はさまざまです。

今回は自然崇拜の一つ火の神信仰について少しだけご紹介いたします。

古より、火は自然界における畏怖の存在でありました。今でこそ人間がある程度コントロールし、生活や産業に於いて重要なエネルギーとなっておりませんが、本来の脅威の部分は未だ失われる事はありません。火は今も昔も人の生活に非常に密着した存在であり、だからこそ人々は火の神様を大切に祀りしてきたのです。

火の神様の代表格と言えるのが、迦具土神（カグツチノカミ）であり、有名な火の神信仰としましては秋葉神社の「秋葉信仰」と愛宕神社の「愛宕信仰」が有ります。防火の神として、台所に各社の御札をお祀りしているご家庭も多くなっているのではないのでしょうか。

いずれの信仰も、秋葉山・愛宕山における山岳信仰から発し、後に仏教や修験道などに関わりを深めながら全国に広まったと言われ

# 『火の神信仰』

ております。

岐阜県では、台所に秋葉神社の御札をお祀りしているご家庭をよく見かけますが、「秋葉信仰」の秋葉神社は静岡県浜松市にある秋葉山本宮秋葉神社を元とし、東海地方より東にかけて広まっております。特に火事が頻発した江戸時代の頃に、庶民の間で大きく広まりました。

一方、西にかけて広まっているのが「愛宕信仰」で京都市右京区の愛宕神社を元とする信仰であります。愛宕神社は都の東に位置する比叡山に対し、西の都城鎮護の神として祀られておりました。特に火災から都を守る事を願い、同社の若宮に迦具土神を祀ったことから、鎮火・防火の神社として崇

敬を集めるようになりました。

そして、これら火の神信仰がより全国へ広まった理由には、江戸時代の「講（こう）」と呼ばれる団体に拠る所が大きく、各講ごとに本山への参拝資金を積み立てて、その講の代表者が本山に参拝し、火防せや安全などを祈願して帰郷すると言ったものでした。当時は個人で参拝するには金銭的負担が大きかったため、講による参拝が盛んに行われてきました。秋葉講だけ見ても、全盛期には全国に三万を超える講があったと言います。講の名残は今でも残っており、町内会などで本山へ代参し、町内の希望者へ御札を取りまとめ受けて来るといふ地域も多くあります。今一度、火と共に生きている事を感じ、畏れ・感謝し、ご家庭の台所に火の神様をお祀りしてみても如何でしょうか。



## 崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば靈験あらたか：：」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させて頂けます。

### 会員の特典 (抜粋)

- ・ 入会報告祭の実施
- ・ 誕生特別祈禱の実施
- ・ 及び祈禱神符の授与
- ・ 主要祭典のご案内
- ・ 昇殿参拝

### 会員の種類と年会費

個人	三千円
家族	五千円
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

〈お問い合わせ先〉

神社社務所まで  
〇五八四一九一―三七〇〇

祭事案内

▼年越大祓

十二月三十日



夏越大祓とは異なり、茅の輪ぐりはございませませんが、神職全員が拝殿にて大祓詞を奏上致した後、皆様が罪穢れを託されました人形（ひとがた）を忌火にてお焚き上げ致します。

人形と申し込み封筒（右写真）

は社頭にご用意いたしておりますので、必要事項をご記入の上、身体を撫で息を吹きかけ、申し込み封筒にお志と共に納め、社務所にお申し込み下さい。

ご不明な点は社務所にてお尋ね下さい。

▼左義長

一月十五日

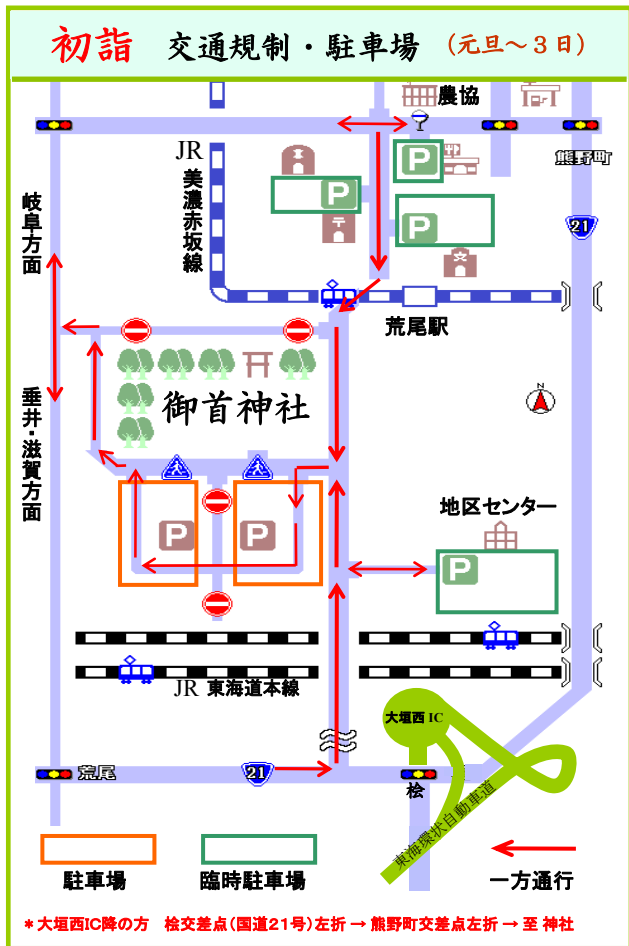
一年間ご守護戴きましたご神札や御守り又神棚の注連縄やお正月の注連飾りを忌み火にて焚き上げます。

但し、注連縄・注連飾りのお持込みは、当日の午前中に限り受け付け致します。尚、事前のお持込や、焚き上げ終了後のお持込はお断り致しておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

▼浄火祭

二月三日

境内に作られた大きな火炉前にて、神職及び氏子の中から選ばれた厄年に当る男性が奉仕します。皆様より奉納されました金幣串や絵馬・帽子などをお焚き上げ致し、心願成就・厄祓いを願います。尚、神事終了後より午前中に限り、古くなった帽子の炊き上げが可能となります。参拝の際は、お焚き上げの帽子をご持参ください。

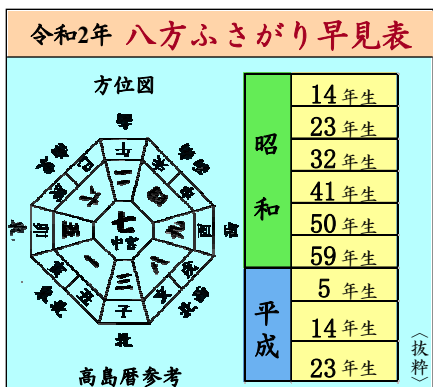


年祝いの皆さん

令和2年 年祝い早見表 (数え歳)

古稀	70歳	昭和 26年生
喜寿	77歳	昭和 19年生
傘寿	80歳	昭和 16年生
米寿	88歳	昭和 8年生
卒寿	90歳	昭和 6年生
白寿	99歳	大正 11年生

ご祈禱をお受けになり  
健康な毎日を  
過ごしましょう



八方ふさがりの  
皆さんの



▼例大祭



四月二日

当神社で最も大きな祭事です。

当日は子供神輿の巡幸が有り(雨天中止)、昼過ぎには境内の特設舞台にて、氏子地域の子ども達による「打ち囃子」が披露され、参道脇には露店も出ます。

神事は午後三時から始まり、神社より献幣使をお迎えし、舞楽(蘭陵王)の奉納も行われ、盛大に斎行されます。

諸祭典(抜粋)

- ▼月次祭 毎月一日・二十日
- ▼元旦祭 一月一日
- ▼祈年祭 二月
- ▼鍛山神社例祭 三月十七日
- ▼南宮神社例祭 五月四日
- ▼お田植え祭 六月 上旬
- ▼農休祭 六月 中旬

新年 授与品・縁起物



祈願絵馬  
初穂料五〇〇円



さくら鈴  
初穂料五〇〇円



開運親子土鈴  
初穂料一五〇〇円

令和二年

初祈禱のご案内



初祈禱は、元旦祭終了後(元旦午前零時半頃)よりお仕え

いたしております。毎年、多数の皆様が我先にと御祈禱(家内安全・商売繁盛・各種受験合格・病氣平癒祈願など)をお受けになられております。輝かしい年の初めに、ご家族揃いでお参り下さい。

正月御供 鏡餅料 受付中です

正月御供(一月初旬迄 受付)  
・酒類・お餅・米・野菜・果物・菓子など



鏡餅料(十二月末迄 受付)  
・正月三日間、鏡餅を御神前にお供えいたします。千円以上のお申込となっております。

\*お下がりが授与されます。  
\*郵送・書留等による申込受付中。詳細は社務所まで。

令和2年 厄年表(数え歳)

	歳	前厄	本厄	後厄
男	61歳	昭和36年生	昭和35年生	昭和34年生
	42歳	昭和55年生	昭和54年生	昭和53年生
	25歳	平成9年生	平成8年生	平成7年生

	歳	前厄	本厄	後厄
女	37歳	昭和60年生	昭和59年生	昭和58年生
	33歳	平成1年生	昭和63年生	昭和62年生
	19歳	平成15年生	平成14年生	平成13年生

編集後記

今年のご即位に関わる神事があり、祭事報告が増えましたので、神職への質問は割愛させて頂きました。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一二八三の一  
Eメール syamusyo@mikubi.or.jp  
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇